



学校改革

生徒主体の教育活動に転換し、 自律的学習者を育む「教育先進校」へ

大阪府・私立常翔学園中学校・高校

1分
で分かる軌跡

国公立大学合格者数1000人（*1）という目標を達成した大阪府・私立常翔学園中学校・高校は、次の課題として生徒の主体性の向上を挙げた。創立100周年を2年後に控えた2020年度、自律的学習者を育む「教育先進校」を目指す学校改革に着手した。育成を目指す10のコンピテンシーと、その到達度を測る「学校ルーブリック」を策定。生徒主体の学校づくりを進め、『自主・自律』の精神を育んでいる。自律した組織づくりのための権限委譲や、教育データを踏まえた指導改善もを行い、改革を加速させている。

#学校ルーブリック

#生徒主体の学校づくり

学校概要

設立 1922（大正11）年

形態 全日制/普通科/共学

生徒数 1学年約600人

2023年度卒業生進路実績

国公立大は、東北大、京都工芸繊維大、京大、大阪教育大、大阪大、神戸大、大阪公立大などに85人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、大阪工業大、関西大、摂南大、関西学院大、広島国際大などに延べ3006人が合格。

* 1 防衛大学校、既卒生の合格者数を含む。



校長
田代浩和
たしろ・ひろかず
同校に赴任して38年目。



教育改革担当教頭
池田 弘
いけだ・ひろし
同校に赴任して18年目。教育イノベーションセンター長。キャリア教育担当。理科。



高校教頭
大谷 保
おおたに・たもつ
同校に赴任して35年目。英語科。



教務部長
中谷元宣
なかたに・もとのぶ
同校に赴任して14年目。国語科。



進路指導部長
尾崎俊江
おえき・としえ
同校に赴任して19年目。国語科。



生徒指導部長
御堂 浩
みどう・ひろし
同校に赴任して28年目。保健体育科。

変革の背景

進学実績の目標は達成。次の課題は主体性の向上

2000年代、国公立大学合格者数が10〜20人だった大阪府・私立常翔学園中学校・高校は、地域有数の進学校を目指し、国公立大学合格者数100人以上を目標に掲げて学習指導や進路指導を充実させてきた。その結果、19年度以降、目標を達成する年が続いている。教師は指導の手応えを感じていた一方で、新たな課題に直面した。田代浩和校長は次のように説明する。

「当時の授業は講義型が大半で、学校行事などでも、教師が生徒に指示する場面がよく見られました。生徒の学力や進学実績は伸びたものの、教師が指示をしないと行動に移せない生徒が増えていました」

トップダウン型の学校経営が長年続いた影響か、新たな挑戦をする教師があまりないことも課題だった。「本校の教育理念は、『自主・自律』の精神の育成です。その原点に立ち

返り、これからの社会を自分の力で生きていける生徒を育てていくために、教育活動の指針や取り組み内容を見直さなければならなりません」(田代校長)

変革の一手①

学校ルーブリックで、育成を目指すコンピテンシーを共有

顕在化した課題に取り組むべく、20年度に学校改革に着手。まず、管理職や各コース長が中心となり、「どんな学校でありたいか」「生徒に育むべき資質・能力は何か」などについて、現場の教師と何度も議論した。そして、創立100周年を迎えた22年度、学校の将来像を「人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育先進校となる」と明文化。育成を目指すコア・コンピテンシーを「知的冒険心」「ヒューマニティー」「レジリエンス」とし、それらを細分化

した10のコンピテンシーと、それぞれの到達度を5段階で示した「学校ルーブリック」(P.42図1)を策定し、教育活動の指針とした。

各教科・科目では、学校ルーブリックを基に、「教科ルーブリック」と「単元ルーブリック」を作成。それらを踏まえた授業づくりができるよう、校内研修を充実させた。教育改革担当教頭の池田弘先生はこう語る。

「生徒間で自分の考えを伝え合うアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業形式で、教師はどのコンピテンシーを育むのかを意識し、生徒主体の授業をするようになってきています。また、月に1回、教科主任が集まり、どの学年のどの科目で、どのコンピテンシーを育成しているかを確認し、育成すべきコンピテンシーで足りない点があればどう補完するかを、教科・学年を超えて話し合っています」

生徒にも学校ルーブリックを提示し、それを基に自己評価をする機会を年2回設け、どんな力を身につけるために、どう行動すべきかを、生徒自身が意識できるようにしている。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

図1

「学校ルーブリック」(抜粋)

コンピテンシー	説明	S	A
		高校レベルを超えて特に秀でている 広い範囲でよい影響を与えることができるレベル	高校卒業時の到達目標 周囲により影響を与えることができるレベル
知的冒険心	①知識・技能を習得する力	身につけた知識・技能を、生涯を貫く教養にまで高めることができる	実社会で活用できる高度な知識・技能を身につけている
	②課題発見・解決能力	世界の問題や課題を進んで見つけ、周囲をリードしながら解決することができる	世界の問題や課題を進んで見つけ、当事者意識を持って解決しようとする姿勢がある
ヒューマニティー	⑤協調性・社会貢献	よりよい世の中を創るために、リーダーとして他者を導き、社会の役に立つことができる	よりよい世の中を創るために、他者とコミュニケーションを図り、社会の役に立つとする姿勢がある
	⑥倫理観	よりよい社会を築くために、人として正しく生きる姿勢	他者を尊重し、よりよい社会を築くよう行動している
レジリエンス	⑨メタ認知	常に冷静に自己を客観視し、将来を見据え、高みを目指して行動することができる	自分の思考や能力を把握した上で現状を確認し、思考や行動を変えることができる
	⑩主体性	自分の意志で学び続ける精神	自分の意志で自分を高めようとする行動ができる

「知的冒険心」は4項目、「ヒューマニティー」は3項目、「レジリエンス」は3項目から成る。

※学校資料を基に編集部で作成。

図2

「常翔キャリアアップチャレンジ」(2024年度)

	1年次	2年次	3年次
一貫コースⅠ類	ガリレオプランⅠ	ガリレオプランⅡ	ガリレオプランⅢ
スーパーコース	<ul style="list-style-type: none"> SDGs研究 基礎研究 	<ul style="list-style-type: none"> 大学と連携した研究活動を行う人文・社会・自然科学の9つのゼミ 文化祭や研究発表会での発表 	<ul style="list-style-type: none"> 論文作成 サイエンスフォーラムでの発表
薬学・医療系進学コース			
一貫コースⅡ類	企業探究学習	ヤングリーダーズプラン	夢実現プラン
特進コース	<ul style="list-style-type: none"> 企業から出された課題を探究 	<ul style="list-style-type: none"> 即興ディベート 模擬国連 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習
文理進学コース		夢発見ゼミ	
		<ul style="list-style-type: none"> 社会課題探究 学園内大学講義 	

※学校資料を基に編集部で作成。

探究学習とキャリア教育を結びつけ、内発的動機を高める

同校は自律的学習者の育成のために、STEAM教育やグローバル教育など、多彩な教育活動を展開。中でも注力するのが探究学習とキャリア

ア教育だ。10年度に構築した、コースと学年に応じた「常翔キャリアアップチャレンジ」(図2)を毎年アップデートしながら今なお実施している。生徒は自分が問題意識を持っている課題に取り組み、問題解決力などを高め、キャリア観を深めている。

キャリア教育においては、生徒が持っている興味・関心を基に、大学で学びたいことや自分の将来像を熟考し、探究学習での学びが進路選択に生かすことに気づくような指導をしている。さらに、探究学習の成果を総合型選抜や学校推薦型選抜に生か

変革の一手②

校則変更や行事運営など、学校づくりを生徒主体に

でも成長し続けると考えています」

精神を育み、自分でやりたいことを見つけて大学や学部を決めることができる、内発的動機が高まり、大学でも成長し続けると考えています」

生徒が学校づくりに参画する機会も積極的に設けた。22年度、「校則変更プロジェクト」を実施。まずは生徒会を中心に、校則を変える理由について話し合い、校則を1つずつ洗い出す中で、「生徒が安心・安全な学校生活を送るため」という校則の本質的な目的を再確認した。そして、教師や保護者、弁護士も入ったプロジェクトで対話を重ね、携帯電話の

使用ルールや、髪型の決まりの男女同一化など、複数の校則を変更した。そうした生徒主体の活動を通して生徒の意識が変化してきていると、生徒指導部長の御堂浩先生は語る。

「生徒会が全校生徒に呼びかけて、入学式や卒業式の企画・運営をするプロジェクトが進むなど、自分たちが学校をつくるという意識が生徒間に広がってきました。生徒会以外の生徒からも、体育祭や文化祭の改善などが提案されています」

また、放課後の自習時間「学習タイム」は、任意参加の日を増やした。高校教頭の大谷保先生はこう語る。

「以前は自習室で時間を過ごすだけの生徒もいましたが、今は部活動への参加やテスト前の自習など、すべき活動を自ら選んでいます。教師は『あと1時間頑張ろう』などと声をかけ、生徒の学習意欲を引き出すようにしています。自分の意思で参加するからこそ、『自主・自律』の精神に基づき学びになると考えています」

教師の意識変革も図ろうと、田代校長は自律型の学校運営への転換を宣言。上長から権限委譲し、教師が

自分で考えて行動することを推奨している。加えて、同僚性の向上や心理的安全性の確保も重視し、フィードバック面談等では管理職から教師に意見を聞くなど、教師同士が話しやすい職場づくりにも取り組んだ。

「職場の雰囲気は、管理職の態度に左右されます。教師からの『報・連・相』に対して、『怒らない』『否定しない』『助ける』『必要な時は指示する』といった『おひたし』の考え方で対話を心がけています」（田代校長）

変革の成果と展望

教育データに基づいた教育活動の改善を推進

学校改革の進展に伴い、多くの生徒が探究学習の成果を発表するコンテストに自ら応募したり、自分のやりたいことを自分で見つけて希望進路の実現に向けた学習に取り組んだり、自律的学習者を体現する姿が見られるようになってきている。また、学校ループリックによる生徒の自己評価において課題発見・解決力

や自己肯定感の評価が高まっていることも成果の1つと捉えている。

24年度には、教育データを活用して教育活動を改善する「IR（*2）プロジェクト」に着手した。それは授業評価や模擬試験の成績、大学入試の結果などを総合的に分析し、これまで見落としていた成果や課題を確実に捉えて教育活動の改善に生かす取り組みで、現在はデータの収集・整理を進めている。25年度からは本格的にデータの分析をする予定だ。教

務部長の中谷元宣先生はこう語る。

「学校が持っている様々な教育データを細かく分析すれば、例えば学習状況調査で家庭学習時間が少ないことが分かった生徒について、どのような要因があるのか、把握することができるともいけません。そしてそれが、個別最適な学びのより適切な支援へとつながればと思っています。エビデンスに基づいた教育活動の改善に取り組み、自律的学習者の育成をさらに推進していきます」

ベネッセが見た軌跡

新たな教育への挑戦

「人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育先進校となる」——田代校長から学校の新しい将来像をお伺いした時、「常翔学園なら絶対にできる」と感じました。

地域有数の進学校として躍進を遂げながらも、新たな教育への挑戦を続け、自ら次の時代を切り拓いていこうとする力強さが、常翔学園の大きな魅力だと思っています。生徒中心の教育内容や学校行事、また学校内外を巻き込んだオープンな学校づくりなど、それぞれの取り組みもユニークかつ具体的です。本記事をお読みいただいた方に、その魅力が伝わっていましたらうれしく思います。

新たな教育を創られる先生方の挑戦を後押しできるように、引き続きご支援させていただきます！

(株)ベネッセコーポレーション大阪支社

大阪府・私立常翔学園
中学校・高校担当

岸田隆志



*2 Institutional Researchの略。学校や生徒、教師など、学校にかかわるデータを収集・分析し、その結果を学校運営の計画・改善などに生かすこと。